

牛久：学校周辺に見る自然

第65号

ひたち野みずべ公園(ひたち野うしく小)

2021年3月18日発行

< 種子散布 ～自然のタネまき >

ひたち野うしく小4年生と歩いた、冬のみずべ公園。今回は種子散布、自然のタネまきです。



風に飛ばされ、くるくる回りながらゆっくり落ちてくるイヌシデのタネ。

種子散布については秋にも紹介しましたが、まだ残っているタネもありました。目立ったのはイヌシデ。風に飛ばされ、くるくる回りながらゆっくり落ちてくるので、その間に親や兄弟から離れたところにまかれることとなります。風まかせなのでどこに落ちるか分かりませんし、離ればなれはかわいそうと思うかもしれませんが、同じ場所に落ちると、芽生えた後、光や水分などを取り合うことになってしまうのです。学校では、同じようなタネにイロハモミジがあります。見つけたら、タネを落としてみましょう。

学校にもある、風で運ばれるタネ。イロハモミジ。



フックで動物の毛皮などにひっついて運ばれる、コセンダングサのタネ。

ダンツツジにとまって糞と一緒に出したのでしょうか。うちのせまい庭にも、マンリョウやエノキ、クスノキなど、鳥がタネを運んだと思われる木がいろいろあります。皆さんも探してみませんか？

【理科支援員：宮内】

鳥が食べてタネを運んだと思われる、学校のナンテン。

次に、コセンダングサ。フックで、動物の毛皮などに引っついて運ばれるタネでした。

鳥の好きな赤や青などのきれいな実は見つかりませんでした。学校には、鳥がタネを運んで芽生えたと思われる木もあります。フェンス沿いのドウダンツツジの中に、ポツンとナンテンが育っています。こんなところに人がわざわざ植えるとは思えず、ナンテンのタネを食べた鳥が、フェンスかドウ

